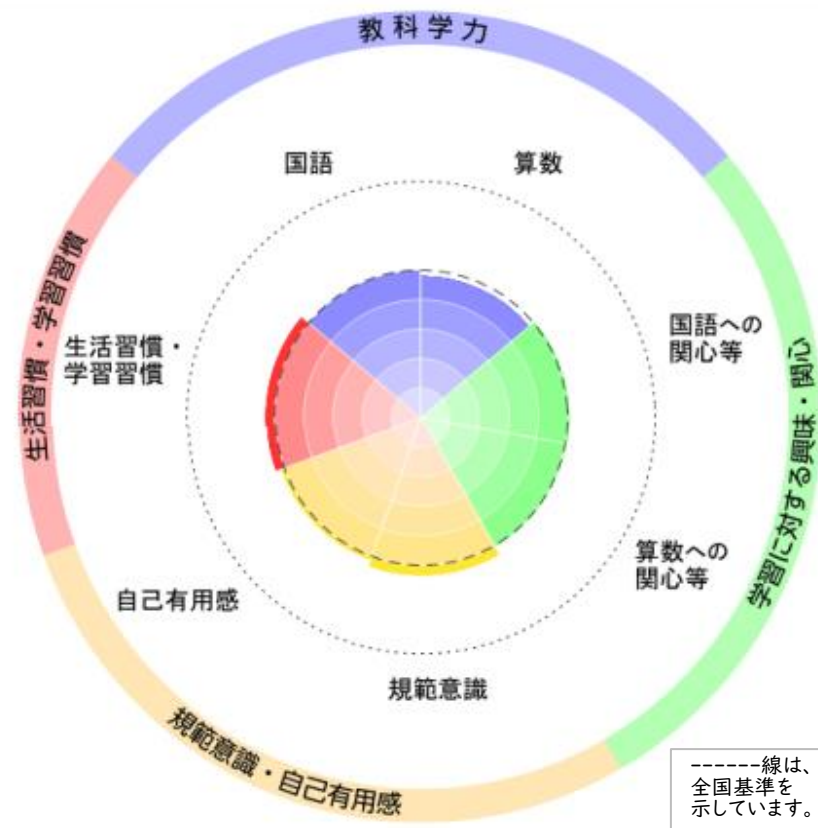


令和6年度 全国学力・学習状況調査における筑西市内小学校等の結果について

筑西市内小学校等の結果についてお知らせします。なお、この調査の目的や、調査結果は学力の特定に一部分であり、学校における教育活動の一側面です。

1 令和6年度全国学力・学習状況調査における本校の結果

本市のレーダーチャート



対 象 : 市内小学校及び義務教育学校第6学年
対象児童数 : 16校 698人
調 査 内 容 : 国語、算数、児童質問紙

2 教科に関する調査（レーダーチャートの「国語、算数」）○：成果、●：課題

【国語】

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使おうとする力に成果が見られた。
 - 「話すこと・聞くこと」における、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫する力が国や県と比較して成果が見られるので、継続して指導していく必要がある。
 - 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
 - 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。
 - 『知識及び技能』(1)言葉の特徴や使い方に関する事項の「漢字」「文や文章(主語と述語の関係の理解)」に課題がある。
- <今後の取組>
- ・基礎的・基本的な[知識及び技能]の確実な定着(正確に覚える、使える)“道具”にする指導
→ 系統性(身近なこと→様子や行動、気持ちや性格→思考)を意識した語彙指導の充実、漢字ポートフォリオの作成通して指導していく。
 - ・[思考力、判断力、表現力等]A～Cの学習過程を意識して、「考えの形成」「共有」ができるように指導していく。
 - ・「考え」「感想」「意見」等を書く活動に意識して取り組んでいく。

【算数】

- 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することに成果が見られた。
 - 球の直径の長さや立方体の辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。
 - 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
- <今後の取組>
- ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着(正確に覚える、使える)“道具”にする指導
→ 身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにするとともに、立方体の体積は、(辺)×(辺)×(辺)の式で求められること等、図形の面積や体積の求積公式を理解できるように指導していく。
 - ・自分の考えを論理的に記述するスキルの定着(口頭、図示等で説明するだけでなく、記述内容の質を高める指導)
→ 場面や目的に応じて、単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるように指導していく。

3 児童質問紙調査（レーダーチャートの「関心等」～「学習習慣」）○：成果、●：課題

- 「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」と肯定的な回答をした児童の割合(88.8%、94.8%)は、全国・県より高い。
 - 「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と肯定的な回答をした児童の割合(88.7%)は、全国・県より高い。
 - 普段(月曜日から金曜日)、テレビゲーム(携帯式のゲーム、スマートフォンを使ったゲーム等を含む)をしたり、携帯電話やスマートフォン等を使ってSNSや動画視聴などを行っている時間が全国・県より長い傾向にある一方で、学校の授業時間以外に勉強している時間(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)が全国・県より短い傾向にある。
 - 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合は、全国・県より低い。
 - 「英語の勉強は好き」と肯定的に回答した児童の割合は、全国・県より低く、他の教科(国語・算数・理科)と比較しても低い。
- <今後の取組等>
- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と肯定的な回答をした児童の割合は全国・県よりも高いので、家庭での約束(特に使用時間について)を再確認する。また、学校の授業時間以外での勉強する時間については、子供たち一人一人が意思決定できるよう、学級活動等を通して指導していく。
 - ・「筑西市授業改革推進チーム協議会」を中心に、一人一台端末を効果的に活用した授業改善を各校で推進し、子供たちがICTを日常的に活用し、自らの学習を調整しながら学んでいけるようにしていく。
 - ・英語の授業におけるコミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にした言語活動の充実や、ALTとの効果的なチームティーチングの在り方について、実践を通じた研修を実施し、自分の気持ちや考えを言葉で表現する楽しさを味わったり、人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わったりできるようにしていく。